

フューチャー・アースの推進に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（23期・第8回）
議事要旨

日時：平成29年5月15日（月）13：00～14：00

会場：日本学術会議 2階大会議室

出席者：氷見山委員長、中静副委員長、花木委員、井田委員、宮寺委員、山形委員、

小金澤委員、田中委員、田路委員、日置委員、井上参考人

欠席者：小松幹事、武内委員、林委員、毛利委員、山口委員、福土委員

資料：

資料1：前回議事要旨（案）

資料2：ワークショッププログラム

参考1：委員名簿

追加配布資料：学術フォーラムプログラム

議事：

（1）前回議事要旨（案）の確認

・資料1に基づき、前回議事要旨（案）が確認され、了承された。

（2）フューチャー・アースの動静について

・氷見山委員長より、FEの動静の主な論点について説明があった。（資料なし）

・FEの動静について関連するところで、ICSUが今SDGsに注力している。特にKANの
連関に注力しており、つい数日前にその資料が回ってきた。日学の場合、ICSU事務局から
情報が来た場合、どのようにシェアされているのか。

→どの情報のことか。

→ICSUメンバーに対する情報。それが日学に来ているわけだが。

→どういう内容の情報か。

→SDGsの17の項目の間の、連携だとか関連。例えば、あるところで改善のペースを上げよ
うとすると、別の部分がマイナスになってしまったり、そういうところはかなり力の入っ
た研究を推進するということ。

→FEの中でSDGsのKANがあり、蟹江先生がそこで活動されている。おそらくそこに集約さ
れるのと、今日か明日、ニューヨークの国連本部でハイレベルフォーラムというのがあつ
て、日本からはJSTの大竹先生などが参加される。色々な動きがあるようだが、ICSUの関
連でいうと、FEのKANのグループが少人数ではあるが機動的に動いている。

→今完全には重ならないが、その点すりあわせをやっていくということか。少なくとも日

学で、ICSU 事務局から日学宛てに来た情報が、日学内でうまく流れる体制になっていないのではないか。その辺をどうするか。

→日学内で SDGs の委員会を今度立ち上げることになっている。4月末に設置が認められ、それは「社会と科学委員会」の中に作ることになっている。今なぜ立ち上げるかという、10月以降何を議論するか、課題や問題点を抽出しておこうということ。

→先ほどの SDGs のところで、何かひとつをターゲットをやると他がマイナスになるということでインデックスのようなものを作られたということだが、それは大変参考になる。自身はオーシャン KAN に関わっているので、来週 JPGU でオーシャン KAN を中心に活動しているキーパーソンがセッションを行い、自身と東大の入江先生が参加する。そこでもう少し情報を得たい。

→これと関係するのだが、7月3日に HD (Human Dimension) の分科会があるが、そこで公開シンポジウムを開催する。これは KAN と SDGs に重点をおいたシンポジウム。HD 分科会に対応する形で IWD 分科会 (IGBP、WCRP 合同の分科会) があるが、そこでも類似の公開シンポジウムを予定している。この日時は未定で、7月の下旬頃が有力候補。これらに共通するのは、FE と SDGs の双方をにらみつつ議論する場であるということ。HD シンポジウムの方もそろそろ最終プログラムができる段階。色々な動きはあるが、全体を集約しているところがなく、個別の情報を集めないといけない。

(3) 公開ワークショップ「FE と学校教育」について

・氷見山委員長より、資料2に基づき、当該ワークショップの概要について説明が行われた。

・続いて宮寺委員より、毛利委員がワークショップで使うパワーポイント資料の撮影について注意喚起が行われた (同資料を動画で撮影するのを控えること、写真は冒頭5分まで)。

[意見交換]

・教育という観点からすれば、「撮ってもいいよ」ではなく、「どんどん撮って宣伝してください」くらいのスタンスであるべきだが、中には非公開を希望されるものもあるので、こうしたものについてはその都度対応することにする。そしてできれば、発表した方のパワーポイント資料は公開したいのだが、これについては日学の見解もはっきりしない。それを掲載するために必要な容量はどうなのか。10メガ程度なら大丈夫なのか。

→特に容量の問題はない。一応基準として、ひとつのファイルにつき 2 メガ程度が適当とされている。

→外からダウンロードするのは禁止なので、メールで直接やり取りしなくてはならない。

→送っていただければ、私どもが皆さんが見やすいファイルの大きさにして加工する。

→添付ファイルの上限は。

→10メガ。

→このファイルは写真や図表が多いので、40とか50とか珍しくないだろうが、10メガで大丈夫だろうか。基本的には公開ということでよろしいだろうか。

【公開ワークショップの発表内容について】

・次に井田委員より、公開ワークショップで発表する「次期学習指導要領におけるアクティブ・ラーニング」、井上山陽女子中学・高等学校教諭より「瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦」について説明が行われた。続いて、日置委員より、佐々木義秀都立科学技術高等学校教諭による「生徒の学習効果を高める授業改善」、田中義靖都立外山高等学校教諭による「持続可能な社会に関わる研究に関わる授業実践」の発表内容について紹介があった。

(4) 日学主催学術フォーラムについて

・次に、氷見山委員長より、追加配布資料「日学主催学術フォーラム『FEの推進と学校教育』」に基づき、フォーラムについて説明が行われた。
・その際、各委員に対し、発刊予定の「学術の動向」の特集原稿の執筆確認が行われた。

[意見交換]

・学術フォーラムをどういう形で持ったらよいか。例えば、日学の総会で自身の方で想定したフォーラムの提案書を提出したが、事務サイドの担当者から指南を受け書き換えをした。そのことに関し日学総会で意見を述べたが、担当参事官から事務方でそういうことはやるはずないと話していた。日学の中でも部署によって対応は若干違うようだ。大西会長もこのことを非常に気にしており、幹事会でもそのことに触れていた。ひとつ困ったのは学術フォーラムのタイトル。当初こちらからタイトルは「高校生と考えるFE」であり、自身の提案ではなく前回参加された高校の先生側から思い切ってこんなのはどうかと提案があったものだ。しかし、日学の厚い壁を破るに至らなかった。

→誰がダメといったのか。そういうことはいわないとは思いますが、ただ、FEの推進委員会は通らなければならないので、そこでどうなるかはわからないが。そういうテーマで提案されてもいいのでは。

→結果的にこのテーマで通ってはいる。日学受けするよりは一般に受け入れやすい、感心を持ってもらいやすいタイトルを心掛けなければならないのではないかな。

→我々からすると、「高校生と考える」というのは(むしろ)日学受けするタイトルということでは。

→日学内もどんどん変わってきているので、事務局の動きが激しく、そこで意思の疎通ができていない面もある。どんな形で持つかということだが、本番で使用する広い講堂をイメージしなくてはならない。日曜日なので大勢の高校生が来てくれるだろう。

→それはどんなタイミングなのか。高校の授業は始まっているのか。

→新学期は始まっているので、日曜日だと動きやすい。

→色々な方面に聞いてみて日曜日がいいだろうということになった。試験も終わっている頃か。どうしようとしたらよいかだが、アイデアをいただきたい。ひとつはポスター。今までワークショップのポスターは違う分野の方と作っているのだが、なかなか皆さんに協力を求めても反応は薄い。もう少し絵心のあるものがよい。今回も顔写真をお願いして全部揃うのに時間がかかったが、本番の1ヶ月前にはそれができていれば関係者に送れるので。先日私が皆さんにポスター案を送ったが、どういうポスターにするのか、そこに送るのか、会場はどうするのか。フォローワーク、ディスカッションはどうするのか、等々を考えないとならない。事務局からも細かい質問があり、多くのことを詰めなければならぬ。今日のワークショップもこれに向けての準備という位置づけだ。どういう質疑応答をしたらいいか、会場をどうしたらいいか、そういうことを含めて考え、最後に意見交換をできれば。特に意見等はあるだろうか。

→委員からの意見等は特になし。

(閉会)